

令和7年度 第8回浄水地域会議 会議録

■ 日 時 令和7年12月10日（水） 午後7時～8時

■ 場 所 浄水交流館 大会議室

■ 出席者

＜委 員＞ 内迫 貴光 勝野 房則 加藤 耕助 成瀬 博文
桑原 正明 佐竹 修 長江 光一 野畠 安浩

＜事務局＞ 杉浦 智文（地域交流課 課長） 渡邊 洋一（地域交流課 主任主査）

■ 内 容 「地域活動やボランティア活動の活性化に向けた今後の進め方について」

- ・10月会議、11月座談会の振り返り
- ・今後の検討事項の設定【意見交換】

■ 議事内容（要約）

- ・今後は「地域と若い世代とのつながりを切らさないしくみ」について検討を深めていけるとよい。
- ・特に、中学校卒業後の若者に対してのアプローチが課題であり、情報展開のしくみや受け皿を整えていく必要がある。
- ・自治区では、情報が若者に届いていないと感じている（回覧板は世帯主しか見ない等）。LINE等のSNSツールを積極的に活用していくことが大切ではないか。
- ・LINEを活用するにしても、まず登録してもらう段階でハードルがある。登録には、魅力的な情報が必要であり、若者がほしい情報を整理していく必要がある。
- ・地域のどんな情報が欲しいかについて、若者に意見をもらえるとよい。
- ・他の地域では、夏祭りの参加を自治区LINEから申し込むようにしたところがある。必然的にLINE登録が必要になるので、登録率が6割まで伸びたと聞いた。
- ・駅前マルシェや人が集まる機会で活用すると効果があるのであるのでは。
- ・全員でなくても、まずは一部の若者に登録してもらうしきけができる。若者はインフルエンサーや友達を通じて輪が広がり、情報が展開していく。
- ・大学生から「学園祭の情報を展開してほしい」と自治区に依頼がある。お互いの情報が展開できるしくみがあるとよい。
- ・高校生や大学生に仕組みづくりの段階から関わってもらうことも有効ではないか。
- ・大学のボランティアサークル等、中心となる人物や団体との接点をどうつくるかが課題。
- ・二十歳のつどいでは、学生がグループLINEを通じて実行委員会を組織している。中学校を卒業する時点で、自主的にグループを組織している様子。まずは、二十歳のつどいの機会をとらえて、しくみづくりを考えていくことができると良いのでは。

■ 今後の予定

令和7年度第9回浄水地域会議

令和8年1月14日（水）午後7時～ 浄水交流館大会議室